

社会貢献不動産ファンド

三菱UFJ 保育園などまず150億円

三菱UFJフィナンシャル・グループや不動産事業のプロフィッツ（東京・千代田）などが、社会的な貢献度が大きい不動産に投資する国内初のファンドを立ち上げる。まず約150億円で組成

両社によると、今回の

3年で700億円規模に拡大する。保育園などへの不動産投資を通じて、利用者の生活の質と賃料といった不動産価値向上の両立を狙う。

ファンドは社会的に与える影響の大きさ（インパクト）と不動産価値の相関関係を定量化する国内初の事例となる。保育園などは待機児童問題など

社会課題解決に貢献する潜在的な価値を持つ。こうした社会的インパクトを定量的に評価する。

1号ファンドは約150億円で、プロフィッツと不動産ファンド運営のA・P・アセットマネジメント（東京・千代田）が運用する。

三菱UFJ銀行が最大出資者として総額50億円、芙蓉総合リースや横浜銀行、東銀リースなども投資する。2026年3月をめどに250億円規模で2号ファンドを組成し、3年で累計700億円規模にする。

資金は保育園、賃貸住宅、シェアオフィス、ホテルの計11物件に投資する。ファンドは、地域社会にポジティブな効果をもたらす社会的インパクトと投資リターンの両立を目指すのが特徴だ。